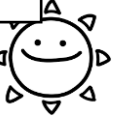


【別室(おひさまルーム)の利用について：教師用】



1. 目的

- ・別室登校において、学習や学校生活に取り組み、児童が教室への復帰ができるよう支援する。
(児童、保護者の方には個々に合わせた伝え方をする。)

2. 場所

- ・別室として「おひさまルーム」を利用する。「学習ルーム」を使用する場合もある。

3. 対象

- ・不登校傾向が続いている児童
- ・別室をステップにし、教室復帰を目指す児童
(学年は分けず、学年合同で別室を利用)

4. 学習と生活について

(学習について)

- ・朝、登校時に自分でスケジュールを決める。
どの学習を、おひさまルームで取り組むのかを担当に伝える。



- ・別室では、自学自習をする。他の学年の児童も同じ教室で過ごすため、静かに学習するよう事前に指導する。担任は、別室での学習課題を提供する。または、教室とおひさまルームをリモートで繋ぎ、教室と同じように学習できるよう支援する。

※自学自習であっても、学級活動が見えて交流が図れるよう工夫する。別室の児童が疎外感を感じることがないように、教室での居場所づくりを心掛ける。

※学級担任は、成果物や、取組の確認を行う。おひさまルームでの学習の様子を、別室担当者は担任に伝える。

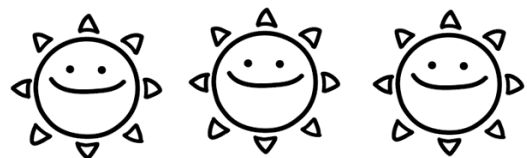
(生活について)

- ・別室に登校する児童も、在籍は学級 できるだけ朝の会、帰りの会は学級で参加し、学級や学年の友達と関われるようにする。(個々に合わせて相談)
- ・他の児童と同様、8：20までに登校を目指す。(児童に合わせて登校時間も相談)
- ・給食や掃除など、児童の登校状況や形態に合わせて、始めに保護者と相談し決定する。
- ・生活に関わり、児童や保護者が不安を感じたり、不登校傾向が続いたりする場合は、SCやSSWと連携する。
- ・学期ごとに、目標を決めて利用の在り方を見直す。(担任含)



別室利用までの手順

- ① 利用までに ケース会議の開催
- ② 担任、保護者、別室担当による面談の実施 利用についての提案、了解
- ③ 学校長の許可→職員間で共通理解
- ④ 別室利用開始



※別室利用については、年度ごとに検討・決定する。